



東福寺神社の神紋

東福寺神社だより

第6号 令和4年5月発行／決算報告
発行 東福寺神社

〈問い合わせ先〉

■中中区総代

■上庭区総代

■東区総代

■上組区総代



東福寺の次の百年
安泰と繁栄を願って

遷霊清祓祭行なわれる

明治16年以來139年ぶり
御神鏡新た

▲五明宮司による清祓い
各区長・総代・
祭事係出席



◀令和4年2月24日付
信濃毎日新聞に掲載された東福寺神社の
遷霊清祓祭 写真提供／信濃毎日新聞社

上組村 南宮神社 高丘(畑地)の下にあった

県庁文書『信濃国神社明細帳』の記載のところで

▶Uスタジアムの西側玄関脇、体育館の北側にあった所に「南宮之跡」碑が建つ。元あった場所からは少し離れている



図1 南長野運動公園の字名地図



▲御厨村との境界に、梶子田・南宮・池田の字名地が見える。南宮社はこの南宮の一角にあった(●印の所)。一反五畝の畑地になっていて、高く盛られていて石標が建っていた

明治時代初期、四集落の神社を併合させたものが東福寺神社です。ところが、上組の村社・南宮社がどこにあったのか判明できずにいました。今回、県庁行政文書『神社明細帳』に記載の南宮社跡地を古地図より探し出した。南宮八三四番地は、図1に示した所に所在していた。

南長野運動公園増設前は、一面の水田地帯の中に、こだけ1mほど高い丘陵のような畑地(一反五畝)があった。その片隅に神社があった。石標が建っていたことを、上組・中組の水田耕作者の多くが記憶に残っている。「ここは、蛇がたくさんいた所だった」。

現在、サッカーUスタジアムの西側2F玄関脇に『南宮之跡』の碑が立っている。元の場所とは少しずれてはいるが、しつかりその跡地が残されていることはありがたい。上組村社、南宮神社(祭神・金山彦命)は、東福寺神社にとって大事な社です。

南宮遺跡発掘調査分析報告 『遺跡で発見された豪族居宅と古代の神社』

鳥羽英継・記

その発掘調査分析報告がこの論文で、筆者は、南宮遺跡出土品の整理に永年携わってきた鳥羽英継先生です。長野県考古学会にはすでに、この論文は発表されています。

この南宮社とは別に、運動公園下の遺跡から、一〇〇〇年前の豪族居宅跡地に古代神社があったことが報告されているのです

オリンピックスタジアムの真下に 豪族居宅と神社跡

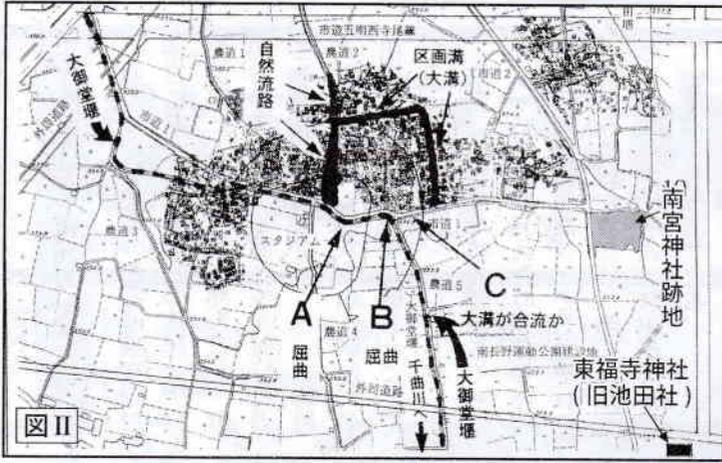
西と東に庇を持っており五間×三間の規模で、面積は一〇三㎡で遺跡内で最大の建物であった。副屋と言われる建物も七五㎡の面積をもつ竪穴住居で、そして一般住居からあまり出土しない緑釉陶器の出土が飛び抜けて多く、銅鏡の出土も飛び抜けて多く出土した。

冬季オリンピック開閉会式場の地下から発見された南宮遺跡は、10世紀中頃の巨大な古代遺跡で、大きな区画溝と自然流路で囲まれた一町(約一〇九m)四方の居宅空間が、完掘に近い状態で発見されたと記している。そして、その居宅内部に豪族の存在を明確に示す、すぐれた遺構や遺物を伴っての発見である。

銅鏡は食器の序列からいくと緑釉陶器よりも更に上位のものであり、仏器とも考えられる高級品である。須恵器の大甕が出土していることは、宴会や儀式・祭祀用に酒などを入れたもので、豪族が集



緑釉陶器の小皿



図II

図IIのスタジアムの真下にあたる所、大溝・自然流路で囲まれた所が豪族居宅跡で、この五等分の一のエリアに神社域があったことが発見された。神社域は四方を溝と柱六列で

10世紀中頃の神社跡は後年の南宮社と結びつくのか？

落内の人たちとの結びつきを強め、生産活動を維持していたものに使ったのだろう。永年使った土器類を大量に廃棄した場所もあった。鍛冶炉が多く出土していることは、

この豪族は金属製品の生産においても勝れており、鉄滓や鉄製品（武器類、農具・刀子など）が居宅内に数多く残った状態で出土されている。



図III 南宮遺跡における集落構造

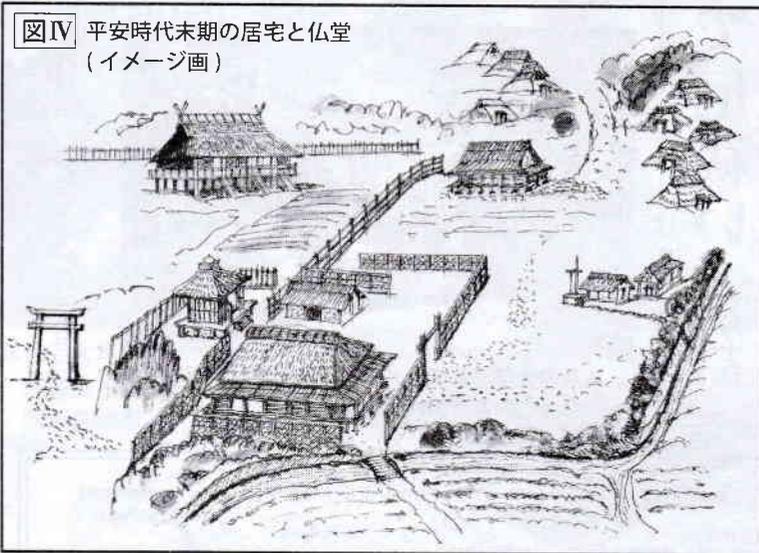
10世紀中頃の古代神社遺構が南宮遺跡から発見されただけでも価値は高い。それが、豪族居宅内にあったことは豪族が集落を維持・発展させるための精神的なより所として、神仏の力を大いに利用して集落の人々をまとめていたことが伺い知れる。

囲まれ、社殿は北側に位置し、溝や土壇をまたいで建てられた掘立柱建物で建物の前面に一定の空間が広がり、鳥居跡や手水舎がみられ神社としての聖域だったことが考えられる。

大御堂堰が集落形成に

大いに役立った

豪族居宅の回りを囲む自然流路と区画溝は、物資の搬出搬入にも使われた。図IIに示されている自然流路は現在の大御堂堰の前身だと考えられ、千曲川や岸川といった大きな河川と結びつき、豪族の形成の基盤の一つとなった。クランク状の川は、物流拠点とし。



図IV 平安時代末期の居宅と仏堂 (イメージ画)

て便利な船場で、豪族が富を築く格好の集積地になったのだ

工房を伴った手工業生産 (鉄、糸・布生産)に関わる空間

図IIIの空間イ、空間ウからは鍛冶炉が多く出土し、鉄や鉄製品の生産にかかわる手工業生産が中心に行われていた空間である。生活用具として必要な刀子が残っており紡錘車(糸をつむぐ道具)、芋引き金(麻を糸にする道具)、鎌・

鎌といった生産に関わる遺物が多く出土している。私見だが、先でも触れているが、南宮の豪族たちは、金属製品の生産に勝っていたことは、鍛冶神金山彦命を主神として崇めていたのではないかと、遺跡に現れた古代神社は、後年の南宮神社に容易には結びつくものではないかもしれないが、祭神は金山彦命であり、神社所在地も豪族の居宅エリアからわずか一〇〇mほど東にずれた所である。因果がないとは言えない。

わくわくする復元のイメージ

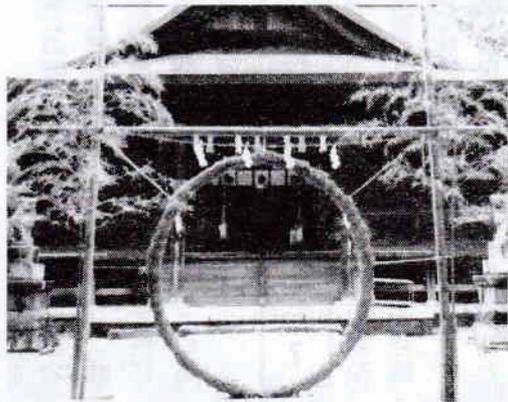
当時、原野であったろう東福寺村南宮にあった豪族たちの住居は、自然流路と人工の大溝に囲われた一町四方の空間に、二面に庇の付いた大きな掘立柱建物（主屋）と、当時最大級とも言える竪穴住居（副屋）の出現は、見たものを圧倒したことであらう。

鉄製品を作るための煙がもくもくと上がる建物が見えたり、糸や布の生産活動があったり。そしてそれらの活気を維持するため、働く人たちのために宴会や儀式、祭祀が行われていたことも推測できる。

神社域では、参道の脇に手水舎となる井戸があり、鳥居をくぐり、社殿に参拝もできるようなっていた。これらの光景は思うに、ここに住む豪族の卓越した力を否応なく感じさせるものである。律令の文書行政の仕組みを知っていた有力者が「神社」などを運営するために、陶印を保持・使用していたことなど。ここはただの一般班田農民ではなく、有力階層による統治がゆき届いたレベルの高い集落郷だったと思う。



出土した「宗清」の陶印



茅の輪くぐりで厄祓い

六月晦日
七月十日

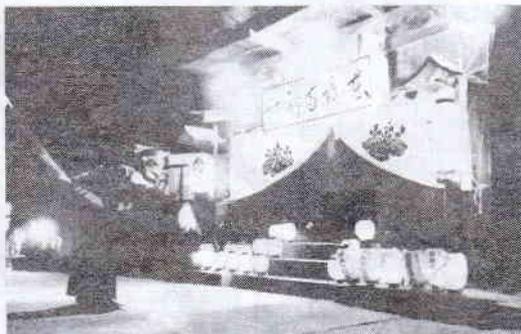
新しい試みです。茅の輪くぐりで「夏越しの大祓い」を準備します。子どもさんもお年寄りも青年たちも、半年間のけがれを祓い、残り半年間の無病息災・平穏無事を祈願してみてください。

「水無月の夏越しの祓いをする人は千歳の命のぶという」

コロナ終息・悪疫退散を願って神社参拝を！楽しんでみてください。

令和4年度 東福寺神社の年中祭事

- 春の大祭 四月十六日(土)
- 夏越しの大祓い 六月晦日〜七月十日
- 風神祭 九月四日(日)
- 秋の大祭 宵祭り(神楽奉納) 九月十七日(土) 本祭り 九月十八日(日)
- 末社祭(小祭り) 九月十九日(月)
- 新嘗祭 十一月十三日(日)



▲秋の大祭・宵祭り/今年は3年ぶりの四区合社の神楽奉納ができるといい

□ 元旦祭 令和五年一月一日(日)

フレキシ印刷包装デザイン/紙器包装デザイン/樹脂版製作/包装設計/サンプルケース/アクリルキーホルダー製作



- 長野本社 〒388-8002 長野県長野市篠ノ井東福寺1312-1
- 新潟営業所 〒950-3321 新潟県新潟市葛塚5000東和ビル1F
- 群馬営業所 〒370-0321 群馬県太田市新田木崎町89番地
- 松本営業所 〒399-0033 長野県松本市大字笹賀6531-13
- 関東営業所 〒242-0005 神奈川県大和市西鶴間2丁目18-26-1
- 千葉営業所 〒272-0836 千葉県市川市北国分4丁目1-15



株式会社 第一包装企画

代表取締役社長 宮下満栄 2022 健康経営優良法人 Health and productivity